

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 254

2018/02/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

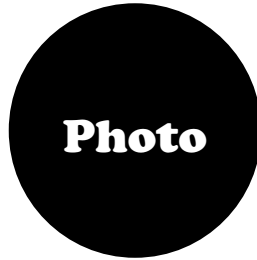
GREEN COLUMN

01. ウチダザリガニを探せ

02. 冬のテントウムシ



今月の一枚



「大美博展の目玉資料は？」

表紙写真・文／町田善康

7～10月に実施した「なつかしの学び舎」に続いて、3月から美幌博物館開館30周年を記念した特別展を開催します。タイトルは「大美博展」。開館してから開催した26回の特別展を振り返り、各特別展で展示した目玉資料を一挙に公開します。

さて、ここで困ったことが…。私は、いつも展示会を開催する際に、目玉資料を一つ決めてPRします。しかし、今回は目玉資料が多く、選定に悩みます。ちなみに、表紙はイトウの骨格標本。動物資料のイチオシです。こんな豪華な展示会は、そうそうありません。見どころ満載ですから、お楽しみに！！

Event. 今月のイベント

企画展「冬季作品展」 2月3日(土)～3月4日(日)

プチ工房「オープン粘土のキーホルダー」 2月14日(水), 16日(金)

モノ作り講座「和紙で作る折りびなかつり」 2月24日(土), 25日(日)

Information. 参加者募集

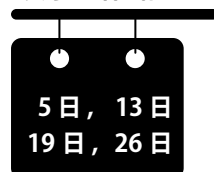
プチ工房「オープン粘土のキーホルダー」

● 2/14(水), 16(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(100円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

モノ作り講座「和紙で作る折りびなかつり」

● 2/24(土), 25(日) 10:00-15:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(500円), 昼食, お手元が見えにくい方は眼鏡 ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(2/1 - 2/22)。対象は小学3年生から一般, 小学生は保護者の同伴が必要, 各回定員12名で締切。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

ウチダザリガニを 探せ

写真・文／町田善康



美幌博物館では、2008（平成20）年よりウチダザリガニの駆除活動を行ってきました。時には年間約1万匹を駆除してきましたが、根絶につながる成果はありませんでした。そのため、従来の駆除方法とは異なる効果的な手法の開発が必要でした。

ウチダザリガニは、夏から秋に交尾を行い、その後冬眠しながら産卵し抱卵、翌春にふ化するという生態を持っています。もし、冬の間に卵を持ったメス（抱卵メス）を簡単に捕獲することができれば、効果的な駆除につながります。

しかし、度重なる駆除活動でも、抱卵メスを捕まえることはほとんどできず、彼女たちがどこにいるのかすら、わかりませんでした。そこで、三重大学の金岩稔先生と田中三次郎商店の指導のもと、抱卵メスに発信器を取り付

け、そのメスを見つけ出す調査を行うことにしました。

今回の調査では、発信器をつけた3匹のウチダザリガニを探しました。受信機を積んだドローンで大まかな位置を探し、その後、手持ちの受信機で位置を特定しました。その結果、3匹とも川岸の土の中から電波が発信されていることがわかり、掘り起こしてみると、土表面から約1mも潜っている個体を発見（写真は見つけたウチダザリガニ）。いずれも、川の水が伏流する場所で、それぞれ単独で冬眠していました。

今回の調査で、抱卵メスが土の中の深いところで冬眠することがわかりました。これまで、川の水が流れるところではばかり捕獲していましたが、土の中にもいることがわかり、正直途方にくれてしまいました。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

冬の テントウムシ

写真・文／鬼丸和幸



先日、展示している発動機を持ち上げてみると、その下の床に数匹のテントウムシの姿がありました。秋から冬にかけて、外壁の隙間などで、よくテントウムシの仲間が集団で越冬している姿を見かけます。

テントウムシの名前は、太陽に向かって飛んでいく性質があることから、太陽の神：天道に由来しています。体は赤や黄色の美しい色をベースに、黒、白、黄などの水玉模様が入るのが特徴です。

テントウムシは、イギリスなどでは“ladybird”（lady= 貴婦人；bird= 鳥）と呼ばれています。ナナホシテントウの赤い体は、聖母マリアが着ている赤いマント、7つの星は聖母マリアが背負った7つの悲しみを表しているとされ、崇められています。ドイツでもMarienkäfer（マリアの甲虫）と呼ばれ、幸福をもたらす昆虫として大切に

され、スプーン、キーホルダー、お菓子など日常的に利用する物に、テントウムシがモチーフになったものが多々あります。

かわいいテントウムシですが、むやみに触ると、体の関節から黄色の嫌なにおいのする分泌物（汁）を出します。この分泌物は、苦みもあるため、鳥などに食べられるのを防いでくれます。ただし、一部のハチやハエの仲間、菌類などからエサにされるため、完全防備というわけではありません。

最近では、農作物に被害をおよぼすアブラムシやカイガラムシを、テントウムシがエサにしていることもあり、生物農薬としてテントウムシの農業利用研究が進められています。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



「(某報道で) 試験数日前から、スマホと接触する時間を制限していないと、スマホ持込不可の入試本番で動揺する」…ここまできているの? という感じです。一度便利さを知ってしまうと、なかなか脱却できないもの。不便さの中にも、驚くような貴重な発見があることを、見つけてもらいたいものです。(鬼丸)